
はじめに

医療における“まちづくり”、“人づくり”、“組織づくり”

日本医師会は、1947年に発足しておりますが、第二次世界大戦前の前身の組織の時代を含めると、初代北里柴三郎が1916年に大日本医師会を設立しておりますので、本年でちょうど100年目にあたります。1923年には、医師会の全国組織として、法人としての認可を受けております。

当時の内務大臣であり医師でもある後藤新平は、発会式の告辞で「^{こいねが}冀うは、地方医師会と相呼応して、内は医風の向上と医術の研鑽とに努め、外は社会の発展に伴うて衛生施設の改善を図り、以て民衆共栄の為貢献せられんことを」と述べました。

このときより一世紀もの歳月が経過しましたが、日本医師会の果たすべき役割は何ら変わっておりません。日本医師会定款第3条には、「本会は、都道府県医師会及び郡市区等医師会との連携のもと、医道の高揚、医学及び医術の発達並びに公衆衛生の向上を図り、もって社会福祉を増進することを目的とする」と謳われております。今日でも、日本医師はこれを理念とし、さまざまな医療を取り巻く課題に対処し、国民のために充実した医療提供体制を堅持するという活動に邁進しております。

今期は、かかりつけ医を中心とした“まちづくり”、将来の医療を担う“人づくり”、医療政策をリードし続ける強い“組織づくり”という3つの基本方針を掲げ、この実現に向けて、積極的な行動、偏りのない政策、そして新たな取り組みへの挑戦、すなわち、Action、Balance、Challengeという3つの基本姿勢で会務の遂行にあたっております。

また現在、日本医師会長が次期世界医師会長を兼任し、来年10月からは1年間、世界医師会長の任に当たるという役割がありますので、この機会にわが国の優れた医療制度を世界に発信することによって、世界の人々の幸福にも貢献しうると考えております。

本編には、平成27年度の活動が網羅されております。ぜひ、ご一読いただき、日本医師会の基本方針とその活動にご理解を賜れば、まことに幸甚であります。

日本医師会長
横倉義武